

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

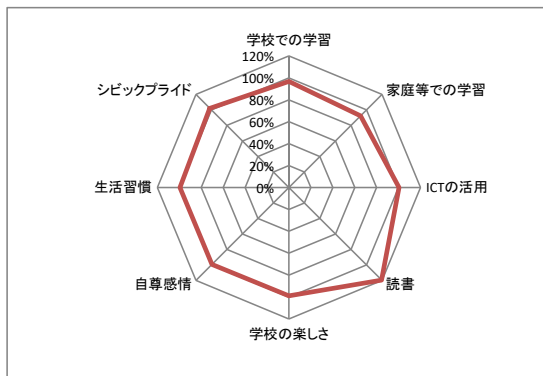
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	漢字や言葉の意味、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すなど、基礎的な知識はみにつけている。また、自分の考えをまとめる問題は県平均・全国平均を上回った。そのほかの問題はいずれも全国平均をわずかに下回っており、特に「読むこと」の分野が苦手な傾向がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうか」「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうか」という問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうか」という問題は正答率が低かった。	
数学	全体的な傾向や特徴など	問題を読み取る力低い生徒が多い。よく読めば簡単なのに問題を読み取りきれず、正答率低くなっていると予想される（大問6）それに対して、直近で指導をした内容(今回でいうと箱ひげ図や関数等)については大幅に平均点を超えている。これらのことから、問題文を読み取る力をよりつけさせるような指導をしていかなければならない。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	計算、四分位範囲、箱ひげ図	
	努力が必要な問題	証明や説明する問題などの記述問題。日頃の定期考査から思考力を問う問題を解かせてはいるが、なかなか正答率が伸びない。	
英語	全体的な傾向や特徴など	日常的な話題に関する正答率は高いが、社会的な話題に関しては正答率が低い傾向にある。また、問われていることに対して、的確な答えを見出すことが苦手な傾向もみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかという問題は比較的よくできていた。	
	努力が必要な問題	「事実や情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実を考えを区別して読むことができるかどうかという問題は正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「読書は好きだ」と答える生徒の割合や一日当たりの読書量は、全国平均よりもかなり多い。生徒たちがたいへん読書に親しんでいる様子がわかる。 ・「自尊感情」についての肯定的な回答が多い。特に「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」の回答は全国平均よりも高い。また「学校の楽しさ」では「友達関係に満足している」という生徒も91%を超えている。 ・「ICT機器を使うことは勉強の役に立つと思うか」という質問には90%近くの肯定的な回答をしている。今年度は「1、2年生の時に受けた授業の中で、ICT機器を活用した頻度」について高いと回答した生徒が大幅に増え、朝自習や授業での積極的な機器の活用が進み、生徒も手ごたえを感じていることがわかる。 ・平日の家庭学習時間は全国平均よりも高いが、家で計画を立てて学習するという回答や、土日の休日の学習時間は全国平均よりもやや低い。計画を立てて学習する習慣を作っていくことが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語…帯活動で漢字や語彙の定着を図りつつ、言語活動を通して細かな文章表現に着目して根気強くテキストと向きあう読解力を身につけさせたい。
 数学…証明問題で、自分の考えを順序よく記述してまとめる練習が必要である。自分の考えを記述して書かせる反復練習をしていきたい。
 英語…語彙の定着を図り、聞く話す読む書くの技能をバランスよく鍛え、言語活動の充実を図る。また、英文を書く活動を継続して行っていきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家庭学習」を行う際に、先の見通しをもたせること・何から勉強するのがわかりやすくすることが大切である。家庭や小学校とも連携しながら、段階を踏んで進めていくことで、自分で考えて学習し続ける習慣を身につけさせたい。また、読書が好きな生徒たちをさらに育てるために、図書館司書の先生と連携し、読書に親しむ取組を取り入れたい。